

24

独立混成第十三聯隊
戰史
沿革
料

在大島部隊
備第一七五八七部隊



1311

独立混成第十三師隊戦史資料

陸軍

一部隊名及部隊後歴、概要、部隊長名並指揮隷属
關係及其表裏、概要

昭和十七年十月

伊印ニ駐屯シテ歩兵第七十師隊第二大隊（長陸軍

少佐鈴木特監）ヲ基幹トスルセリ大島島ニ進駐

シ第四艦隊司令長官、指揮下ニ入り海軍第六十五艦隊

司令、指揮ヲ受ク

昭和十八年七月

歩兵第七十師隊現地復員シ南海第三守備隊編成

下令カレシカク現部隊ニシテ他ニ戦車、野砲、速射砲各

一中隊編入セシ事、師司令部、隷下ニシテ依然（第四

艦隊司令長官、指揮ヲ受ク

927
ヤ
中虎

昭和十八年七月十日

南海第三中隊隊長陸軍大佐近藤重治着任

昭和十八年七月二十七日

編成要員記号中隊速射砲中隊大島上陸軍海

第三中隊編入丸

昭和十八年九月五日

編成要員記号戰車中隊大島上陸軍海第三中隊

編入丸 但し戰車中隊海没多人揚陸也

又約九十名内地ニ交代帰還ス

南海第三中隊要員ニ編成人員九八〇名

昭和十八年十月廿七日

大島島附近、討機動部隊、戦斗ニ参加ス

昭和十九年一月一日

戦車第十中隊主力(長陸軍中佐八代重矩)約二一〇名

当初の配置予定

(大陸命参照)

陸軍

獨立混成第五聯隊第一大隊(長陸軍少将 井瀨一約)

九日名 大島島上陸 南海第三守備隊長 指揮下ニ入ル

8 昭和十九年三月十日

要部軍司令官、補下ヲ股ニ第三五軍司令官、補下ニ入ル

9. 昭和十九年五月二十日

大島島附近、并機動部隊戦斗ニ参加ス

10. 昭和十九年六月一日

独立混成第十三師隊(長近藤大佐)編成下ニ入

南海第三守備隊戦車第一中隊隊獨立混成第五師隊

第一大隊ヲ編成シ同月三日編成完了ス

11. 昭和十九年九月十日 同二十年六月二十日

大島島附近、并機動部隊戦斗ニ参加ス

12. 昭和二十年七月五日

病状船高砂丸入島患者約20名内地還送ス

13 昭和二十年七月六日、八月廿一日、六日、八日

大島島附近、対機動部隊戦に参加

14 昭和二十年九月四日

陸戦一件、米軍と大島島を討渡

15 昭和二十年十月五日

病後船痛砂橋丸より第一次復員者出口六村以下

二五〇名内地還送

16 昭和二十年十一月一日

三井少佐以下

病後船氷川丸に依り、野隊全員二五〇名内地帰還

野隊長以下二名残留

17 昭和二十年十一月十七日

復員者二名

一衛生問題の事項

1. 患者並ニ死者ノ状況

昭和十九年三月迄ノ内地ノ主糧品ノ神給ノ係糧秣等ニ
 平均給與カリ一三八〇カロリーヲ示シ患者發生ニ毎月九、六、五
 名程度死者一、二名ニ過ズ衛生状態良好ナリ四月以降糧
 秣神給途絶ニ依リ減食ヲ俾テ九月迄ノ間概一、二〇〇カロリー
 ニ低下シ之に伴ヒ死者逐月激増シ六月一日ニ於テ陸軍總員
 一九三〇名中、六月ニ四七名、七月ニ六六名、八月九八名、九月一四五名ニ達シ
 之ニ伴ヒ患者愈々増加シ全員患者トナリ
 其七原因ハ栄養大調ニ依ルテ大部ニテ(消瘦型、浮腫型)下痢
 ヲ伴ヘリ十月以降潛水艇ノ神給ニ依リ給與量僅少ニモ増量
 セシ平均一五〇〇カロリーニ至テ患者愈々減少シ
 十月九一名、十一月五一名、十二月三六名、昭和二十年一月二七名、二月八名、三月
 十四名ニ減少セシモ四月より潛水艇ノ神給杜絶ニ依リ四月より再ビ
 患者

減食量、協和依リ死七者、患者激増シ、四月廿五名、五月七八名、六月

一一三名ニ達シ、育下旬、潜水艇ノ入港迄ニ七月初旬、疾陸艇ノ入港ニ依

リ、患者^{激増}内地ニ依リ送ラセテ、七月以降、死七者、患者激減シ

七月ニ至ル、八月十一名、九月十月各二名、死七者ヲ去リ

九月、若輩、道駈ニ依リ、未年給與(四・一カヨリ)ニ依リ、一般体力ハ

漸々向上シ、健康長ニ回復ス

營養失調、甚然、削瘦型ヲ示セルモノ、即漸次、棒直、減少ヲ来シ

骸骨トナリ、自然死ヲ来スモノ、浮腫型ハ、金身浮腫ヲ来シ、死スモノ

ヲ、歎案ス

又一般体力ノ状況

減食量實施前、部隊平均体重、五八斤ニテ、即九也、以降、減

食量實施ニ伴ヒ、体力ノ愈々低下シ、九月四七斤ニ減少、即六ニ最

下位ニ達シ、四一斤ニ減少ス、甚シキハ、二八斤ノ兵ヲ現ス

従テ、兵員ノ作業力ハ皆無ニシテ、諸ニ筋肉作、空テ、常時

3. 患者後送ノ状況
臥床ニ僅シ歩行ニ依リ容易ニ心悸亢進ヲ来ス壯健ナリ

昭和十六年十月廿九日(海軍病院船)ニ依リ十月廿七日押込
部隊ニ依リ戰傷患者二十數名ヲ後送ス

昭和十九年七月二日 病院船高砂丸ニ依リ患者廿名ヲ後送ス
昭和二十年十月廿日 橋丸ニ依リ不健康者三名ヲ
帰還ス

4. 宿營 給水 其他ノ状況

昭和十八年十月 機動部隊奉送前ニ地上建物ニ宿營スル
環境ニ一般ニ良好ナリモ爾右陣地 掩蔽内ニ起居セザルノ止
ナキニ至リ

給水ニ天水以外ニ利用スルモノ多ク井水ニ概ネ海水ニ近ク
悉ク利用スルノ價値ナキモ乾期ニ至ルニ止テ得ズ井水ヲ
使用スル状態ナリ

現地物資、状況利用ニ付、樹木多、全島珊瑚礁、多ク、
野果栽培、稀ナリ

真傍、及年一二回定期的ニ飛来セ、海燕ノ産卵ニ充テ、
一、生産品ヨリ

衛生材料ノ状態

屢次、機動部隊並大型機ノ来襲ニ依リ、衛生材料ノ
減少ニ加フルニ、減食ニ依ル患者、激増、多ク、缺乏ニ特ニ
止痢剂、各種營養剂、ビタミンB剂、皆無ノ状態ナリ

一 給養ニ関スル事項

本島、全島新生珊瑚礁ニシテ南方特有、果樹等無ク又一
方利用スルキ現地物資トシテ、真介及梅燕、卵(定期的ニシテ)
年ニ回基卵トシテ、除キ皆無テリ。従ツテ給養總テ追送
補給品ニ依リ他ナシ

昭和十九年一月毒成丸入港以來、定食全ク補給杜絶シ、保
有糧秣、僅少ト現地物資、階無トシテ依リ別給、如キ約一年
半減食ニ依リ喰ヒ地シテ食實施テリ

此間補給潜水艇ノ本島ニ依リ別食トシテ食糧新味増
新醬油若干及干燥野菜一人一日一口乃至七尾ニシテカロリー
トシテ見ルベキモノナキヲ以テ、真介等ヲ利用セリ。但シ体力ノ
逐次減少ト補獲頻繁ト具ツ資材ノ不足、又真傍モ言、
如クナラズ補足トシテ極ク不充分ナリ。

自給自足ニ関シ研究ニモ清水ノ皆無ト具ツ珊瑚礁トニヨリ

不可
能
す

一 陸戦より帰還迄ノ行動概要

1. 昭和二十一年九月四日 未軍 駆逐艦三隻 未島マール未軍 指揮官ハリ九少将代理 ナチソノ代将 未島シ大島島

ヲ未軍ニ引渡ス

2. 九月五日以降 未軍ノ指示ニ依リ 兵器引渡シ 彈藥、海

没等行ク

3. 九月二十日以降 未軍ノ指示ニ依リ 未島ニ引渡シ 建設工事 援助シタ

毎日作業員約二百名 協力ニ 荷揚作業等ニ従事ス

4. 十月三日 疾風船 橋丸ニ依リ 出口大計以下 三百名 内地帰還ス

5. 十月六日 以降 毎日 作業員約二百名ヲ以テ 未軍ノ指示ニ 協力ス

荷揚、飛行場建設 土木作業等ニ 従事ス

6. 十月一日 疾風船 氷川丸入島シ 三井少佐以下 二百二名

ヲナイ島ヲ空由ニ 十月十四日 津賀港上陸ス

騎隊長 近藤大佐 騎隊副長 水少佐 及 氷島管長

三名、俾處問題ニ依リ、若側ニ御留、又甲村上等、本
通談トテ、殊効ス

7. 十月十日、閣下、上陸地支局ニ於テ、独立後、或第1、
後員完結ス

十編成裝備ニ就テ

(1) 在大島島部隊、第四艦隊(海軍)第三十軍司令官(陸軍)ノ
隷下ニ在リ陸軍部隊、海軍第五十五警備隊司令ノ指揮ヲ
受テアリ 其、編成及、如シ

海軍第五十五警備隊(約二〇〇〇名)

車部

司令部(五トテ十二糧以上ノ砲ヲ基幹トス)

航空基地隊

水警隊

海軍第四施設部(約五〇〇名ニテ内朝鮮ノ約一割)

軍属ニテ土木作業、飛行場整備作業ニ任ズ

独立混成第十三聯隊(一九三九名)

以一九三三、大島島ニ在テ編成ス 其、編成裝備ノ

概要琳表ノ如シ

考 備	彈 藥	總 計	2TK	1TK	A	II						I						聯隊本部	隊 子		人 員			
						計	IA	8	7	6	5	本部	計	IA	4	3	2		1	本部		特 任	下 士官	
本表外ニ敵産十三種ヲ檢閲銃各隊概テ二銃又歩兵砲中隊ニ三付高角砲四門 五付平射砲二門ヲ有シ砲台中队ニ敵産五付平射砲二門ヲ有シ又		九八	七	八	四	二九	三	五	五	五	五	六	二九	三	五	五	五	五	五	六	二	特 任		
		一八四一	四六	四五	七三	八四八	一〇七	一七二	一七二	一七二	一七二	五三	七〇九	五七	一五五	一五四	一五四	一五四	一五四	三四	二〇	下 士官		
		一九三九	五三	五三	七七	八七七	一一〇	一七七	一七七	一七七	一七七	五九	七三八	六〇	一五〇	一五九	一六〇	一六〇	一六〇	四〇	一四一	計		
																							計	
		582946 ^發				三〇		九	七	七	七		六三		一六	一六	一七	一七			一四		計	
		12200				二八		六	七	七	七	一	四〇		一〇	一〇	一〇	一〇			五		計	
		MG 291216				一〇		二	三	二	三		一三		四	三	三	三					計	
		462782		八	八																八		計	
		KMk 5988				二	二							三		一	一	一					計	
		砲 9432				三								三		一	一	一					計	
		37A 2913				三	二	一						五		二	一	一	一				計	
		47A 2853												四	四								計	
		TR 12604		九	九																三	九四	計	
		2220				四																	計	
		一八	九	九																		計		

獨立混成第十三聯隊 編成表ニ裝備ノ概要

七月五日ニ花江編成人員表

計	下士官 兵	將校	階級		隊
			階級	番号	
計	百七	一八		〇	
二〇四	二〇	一七	三	〇	I
	四〇	三七	三	一	
	四〇	三七	三	二	
	四〇	三七	三	三	
	四三	四〇	三	四	
	三一	二〇	一	TA	
二二四	三三	二〇	三	〇	II
	六〇	五五	五	五	
	四〇	三六	四	六	
	五〇	四六	四	七	
	三一	二八	三	八	
	二〇	一八	二	TA	
二九	二八	一	A		
一八	一六	二	TK		
三五	三一	四	TK		
六三	五五	六	計		

陸軍

一 作戰準備關係事項

大島島防備計画

1. 防備方針

在大島島部隊の絶対優勢を以て敵の空海より先攻撃に討つ力
を以て何れも持続シテ出陣し強要ニ状況は止り得ずハ
持続白敵の延長ニ努メテ新シテ追撃ノ玉碎ヲ避ク

2. 指導要領

1. 戦斗地域地区隊の区分附表ノ如シ

右地区隊 (上) 58

中地区隊 (下) 15

左地区隊 (5) 8

任務 方面ノ敵ヲ以テ隊ニ對シテ減ス

第一第二戦車隊

砲兵隊

要圖ノ邊ヲ

予備隊 (一) (主)

口、遠戦、主として一五程以上を以て行はれ、状況変化を以て予備隊を
 施す

ハ、射撃は不意襲撃的に行はれ、射撃は早急の射撃を以て行はれ、
 射撃開始は、陣中にて行はれ、如し

MG 500 挺

MG 300

300

RA, BA 1000 挺

A 2000 挺

以内は

二、敵上陸は、必ず水際にて撃滅せしめ、状況変化を以て得

たれば敵橋頭堡確保せしめ、是を撃滅す

ホ、敵上陸初夜橋頭堡確保時、逆襲は、好林ならぬ限り

第一線隊長の機銃を以て逆襲を行はせしむ

ハ、逆襲は、各地に隊長以上を統制し、逆襲を以て行はせしむ

被上陸正面は、第一線隊長の抽退を準備せしむ

ト、状況変化を以て得たれば、各地に毎三隊を以て逆襲を行はせしむ

陸

陣地ニ依リ飽ク迄抵抗ヲ持續ス

左陸軍守備地域内ニ在ル海軍部隊ニ近接ス右陸軍指揮

官ノ指揮ヲ受ク

リ。敵ニ對シテ攻守ハ如何ナル夜間ヲ利用シ其善領ハ分散

解然斬シテ用フ

又敵ニ對シテ攻守ニ自任ス

第一ニ戦車次テ指揮官、兵員、軍需品ノ順序トス

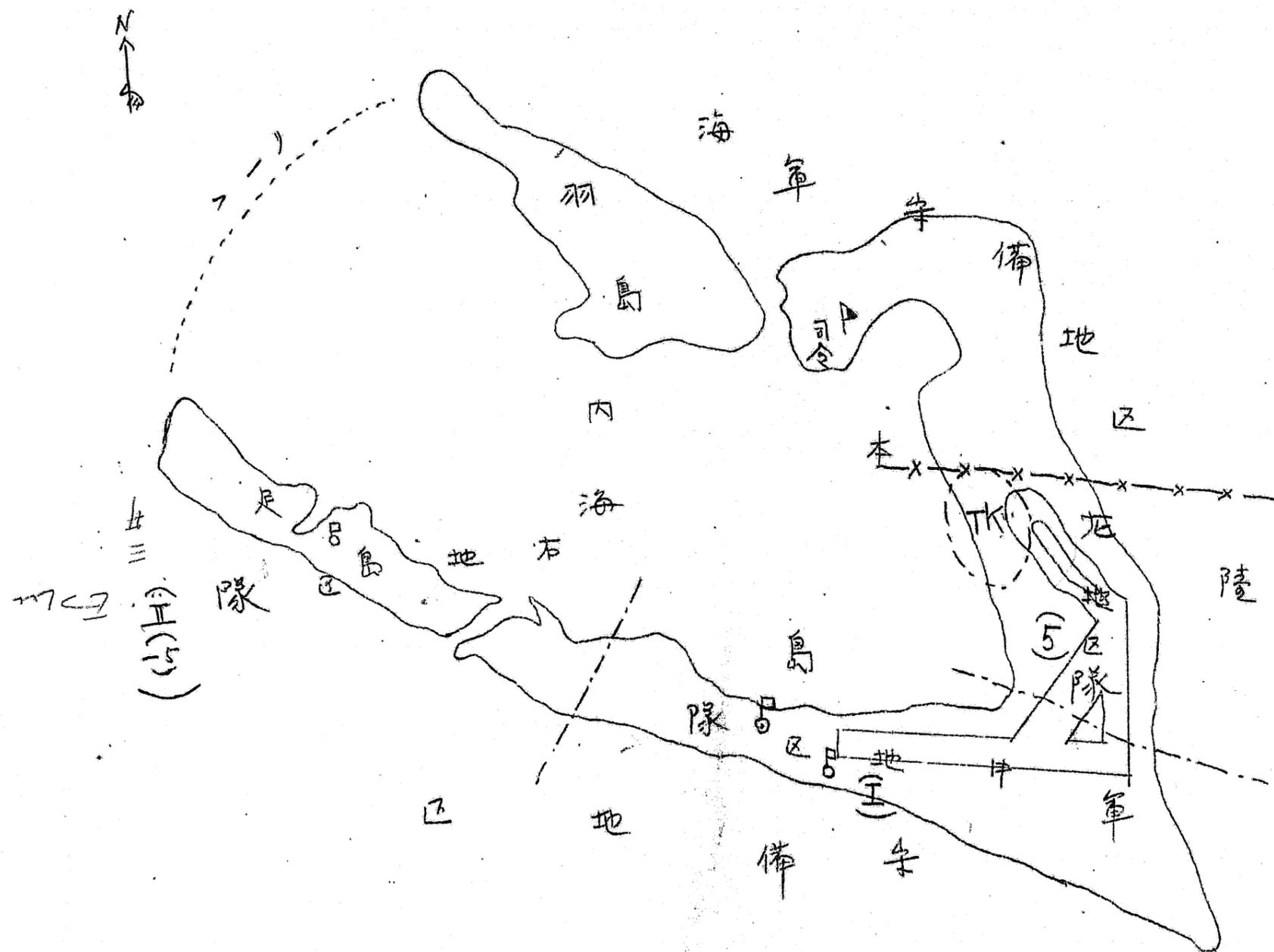
ル各隊ノ訓練

水陸戦斗 100%

陣内戦斗 100%

陣外戦斗 (言ハシテ) 100% トス

大島島防備部隊占領要図



海軍と戦地境

2. 作戰ニ関スル命令

作戰命令、給養量、変更並ニ敵作動部隊来襲時ニ

下達セルモノニテ其、一ツヲカ、ガ、

昭和十九年九月四日 機動部隊ニ対シテ

機主海軍第三師団命令

一、敵機編隊ニ日度方向ヲ素襲ス

二、各部隊第一警戒配備ヲ空ニ備ヘヨ

三、各隊九一式機銃銃以上ヲ以テ空射束、敵機

隊ニ射力カヲ

四、歩兵砲中隊砲兵中隊ヨリ五針平射砲ヲ以テ敵艦機

射力ヲ準備スヘシ

射撃ノ時種別命令

五、午余、諸隊、極力被害ノ局限ニ努ムヘシ

六、車日、給養、五日有増食スヘシ

(2) 昭和二十年八月九日 作命

独立隊或第十師隊命令

一、敵機部隊隔八月一日迄ハト頻りに攻撃奉島攻

撃ス 奪取ハ公認 極大ニテ警戒奉島

二、師隊ハ次期攻撃ヲ顧慮シ益々訓練ヲ期シ防備ニ

遺憾トスルモノト

三、各隊ハ整々戒ヲ益々嚴ニスト 尤も夜間ニ依リ訓練スル

小訓練時有一日概テ三時有

二、訓練規則一〇号ハ増入シテ給

三、訓練項目別詳シ

計天國追及早計大坂助作

在島島ヲ主作トシ 戦平群我長、完成

水際蓋ニ陣内戦平(迎至、死傷ニ志ス)

3. 陣地状況

① 開戦時機迄或時作強度

② 昭和十九年十月三日大島島上陸時、海軍作業は依り一線式

軽陣地及び銃陣地漸々堪へ人員待避壕あり

昭和十九年五月三日迄は殆ど完成あり

上陸直に陣地構築中 縦深陣地は改め

軽陣地銃以上は殆ど全部又予備陣地一部は掩蓋式

トラス

戦車壕は本島四周に計し深さ二一五米幅二米を以て

構築す(五トラスレインに依り)

鉄條網は屋根型有線鉄線を以て採用す

后位散佈は總て土中或は掩蔽部半土中或は土中

式ノモハ積土約一米ト以て銃掃射は堪へ得サシム

各戦車指揮所は概ね五トラスノ厚さ二米ハ得サシム

(2) 所要人員

昭和十八年迄 約一〇〇〇名

十九年以降 約二〇〇〇名

一日働働時分 約二時分トス

(1) 使用資材

まどり個々用田舎、及十字鉄ヲ使用ス

クレーン 二

カルトガ 一 ヲ以テ戦車壕ノ構築、掩蓋ノ積土ニ用フ

クレーンニ依リ戦車壕(深サニ米幅ニ米)、構築速ニシ

一箇所約十米トシ、一日約五時分作業セシム

(3) 敵ノ攻撃ニ依リ破壊

一戦車治療所(コンクリート製)入口ニ約一五〇軒直撃彈ニ依

リ破壊セシ死傷者ヲ多クシ

二彈薬庫ニ掩蔽部一其他陣地等ニ約一〇〇

補完、川元

射撃度ノ直撃ヲ受ケ完全ニ破壊カレ死傷者ヲ出ス

最近彈ニ対シテハ效果ナシ

掩蔽部一ハロケット砲彈ニテ天蓋ヲ貫通(積土約一尺)

ニ内部ニ於テ窄烈シ損傷ヲ出セルモ壕ニ破壊セズ

ハ、神給ノ状態

各種資材ノ神給ニ皆無ニシテ且ツ現地ニ於テ利用スヘキモノ

無ク且ツ雨濕多キ多ク腐蝕シ易ク概ネ二年ニシテ修理

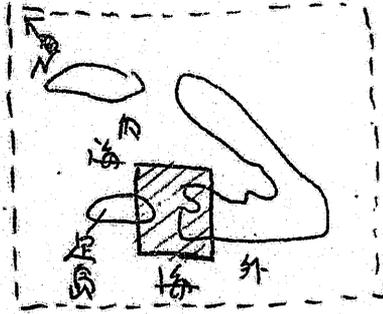
ヲ要スヘキモノモ前記ノ事情ニ多ク放置ノ止ムテキ至ルリ

港湾状況

主として沿岸水警隊
準備完了



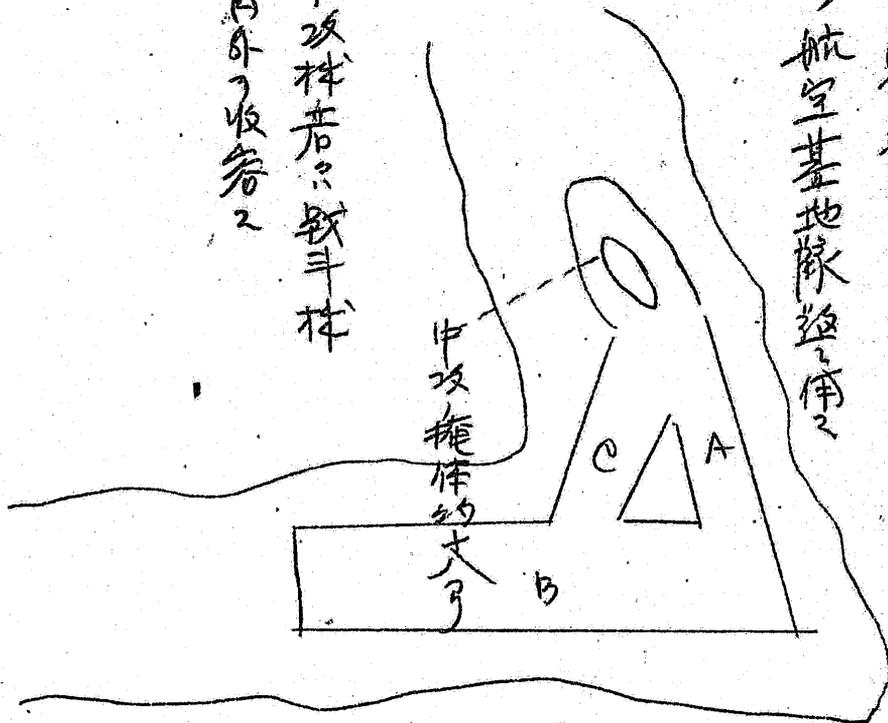
上空より見たら
この通り
この通り



大発火艇

飛行場状況

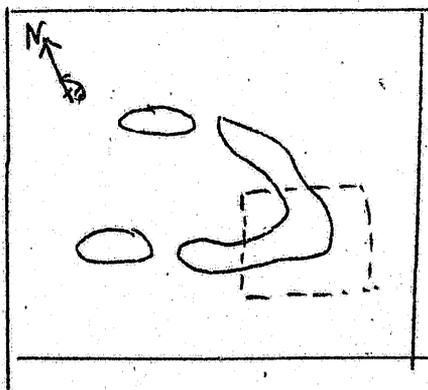
海軍航空基地跡の南



概不中攻掩体若くは中攻掩体
20坪以内の収容

海軍航空基地跡の南

内海に大艇降下
可能



潜水補給6回と相違あり
八代大佐の記録は

4. 軍需品ノ集積ノ状況

① 神給ノ状態

1. 昭和十八年三月一日、割合ニテ生糧品ヲ神給シヨリ

2. 昭和十九年一月一日、赤城丸ニ依リ増強部隊ノ携行糧

秣三月分及一部ノ生糧品ヲ神給ス

3. 昭和十九年九月、勸送潜水艦ニ依リ主食四五噸及

十月分ノ副食若干、衛生材料ノ神給ス

4. 同年十一月、主食二八噸並ニ航空機油若干ノ神給ス

5. 昭和二十年一月、主食四五噸及兵器若干

⑥ 同年四月、八〇屯ノ神給アリタルモ敵潜水艦ノ雷撃

ニ依リ味方輸送潜水艦急沈シ島ニ三〇噸流失

シ五〇噸揚陸ス、黄色葉ノ神給ス

⑦ 同年六月、五〇噸ノ神給ス、潜水艦々尾ニ積載セ

シ糧秣ノ浮力欠如多流失ス

陸 軍

(D) 集積ノ状態

糧食ノ神給ヲ神給迄ニ概テ消費ス現況ナリ
主食ハ各隊事務(七ヶ所)ニ分置シドラム罐ニ積メ
土中ニ埋没ス

副食其他ノ軍需品ハ半キ中式若シハ土中或ハ倉
庫ニ分散格納ス

(E) 現地自治ニ就テ

本島ノ新生ノ珊瑚礁ニ及テ南方特有ノ果樹
等無ク又清水ナキ故現地自治ハ不可能ナリ

農園ノ戦前米圃カハワイヨリ運搬セシ農園土

ヲ各隊ニ分配シ概テ半年内外ノ耕作野草ノ裁
培ヲ行ハルモ極メテ少量ナリ芋類ハ全テ不適ナリ

兵隊ノ各隊毎ニ兵隊班ヲ編成セシメ各隊毎ニ
兵隊班ノ不逞ト体力ノ消耗トニ依リ成身ノ期

待し得ず

③ 海軍八年に概不三回本島に飛来シ産卵ス

一時群ニ概不五萬個程度ヲ採取シ飼食ニ充當ス

(中) 爆薬ニ依リ掃蕩

昭和十八年十月六、七日敵機動部隊来襲ノ際地上

建物中ニ收積セシ糧秣約半ケ年分燬失ス

又爾后糧食ノ地中ニ分散埋没若クハ土中式倉庫

ニ收積セル多ク爆薬ニ依リ掃蕩皆無ナリ

3. 彈薬庫ニテ所直撃ニ依リ爆砕セリ

予訓練ノ状況ニ就テ

(1) 昭和十九年六月末迄

1. 一般予教育ハ昭和十九年三月迄ニ各陣地ニ應ズル基礎的

動作並ニ分隊戰鬥教練ヲ實施シ六月末迄ニ十師級練ヲ

實施指揮ニ自隊初備ニ應ズル小隊陣内戰鬥等領ヲ

概テ定全ニ心得セシメ未日ニ小隊教練ノ檢閲ヲ實施ス

此ノ自作業ト併テシテ毎週一日約四時存トス

2. 幹部教育ハ小隊長トシテ必要ナル各種戰鬥法並ニ

實兵指揮ニ盡スル用テ教育ニ幹部トシテ必要ナル諸

能力ヲ附與セシメリ

(2) 昭一九七、一昭一九一一迄

本期間ハ幹部教育ニ盡スルヲ用セリ

1. 一般兵教育ハ減食多ク兵力ハ極度ニ消耗ニ達スル

訓練ニ堪ヘ得ズ従テ予練或スベキ中隊教練ニ之ヲ延期

中隊長ニ対シテ依然戦術教育ヲ實施セリ

(三) 取ニ〇四以降

極度ノ減食ニ伴ヒ部隊ヲ以テ行フ訓練ハ殆ト不可能ニシテ各隊ハ射撃技能向ノ多射撃ヲ行演習並ニ砲術ニ應ジテ狙撃ノ訓練ヲ又体操等毎日約一時間先訓練ニ充テラセ

(お) 昭和ニ〇八月十日ヨリ終戦迄

八月ニ入りシヨリ部隊運動部隊架ク素装シ本島攻略ノ可能位大ニシテ一部ノ給養量ヲ増加シ訓練ス

即チ七月五日本島高砂丸ニ依リハ本島ノ帰還シ残人負古ニ本島ヲ以テ從前ノ守備地ヨリ擔任セザルハラス且ソ状況切迫ニシテハ以テ

幹部ニ對シテハ兵食減少ニ伴フ各重火器ヲ主体トシテ戰鬥訓練ヲ現地ニ就テ教育ス

一般の教育、毎日約三時を新編或新配付ニ基ク
 小除陣内戦斗、並ニ并戦車迫攻撃、要領ヲ更ニ
 教育シテ、防備ノ完備ヲ期スニ力メ教育中
 停戦ニ至ル

三 戦斗ノ状況

1. 掃蕩部隊素戦状況 時表ノ如シ
2. 敵方型掃蕩部隊ノ状況 時表ノ如シ
3. 地上戦斗ノ状況

分割撮影ターゲット

分割した 原稿の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="639 589 1190 976"><tr><td data-bbox="639 589 1190 786">1</td></tr><tr><td data-bbox="639 786 1190 976">2</td></tr></table>	1	2
1			
2			
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め		
図・表等名	機 動 部 隊 来 襲 状 況 表		
上記のとおり分割撮影したことを証明する。			

行表

機動部隊着裝状況表

耗射	害		被		被		未	未		区
	銃類	其他	主要兵器	其他	人	物		機	機	
約	約	約	約	計	戦	戦	約	約	年	
約	約	約	約	計	傷	死	約	約	月	
約	約	約	約	計	死	死	約	約	日	
約 2,500	約 2,500	約 2,500	約 2,500	57	特校 1 特主以下 2	特校 1 特主以下 3	約 400	約 3,000	昭 28	
約 2,500	約 2,500	約 2,500	約 2,500	21	特校 2 特主以下 1	特主以下 9	約 400	約 400	昭 29	
約 500	約 500	約 500	約 500	無	無	無	約 500	約 500	昭 29	
約 2,000	約 2,000	約 2,000	約 2,000	16	特主以下 5	特主以下 1	約 2,000	約 2,000	昭 30	
約 2,000	約 2,000	約 2,000	約 2,000	3	特主以下 3	約 100	約 400	約 1,500	昭 30	
約 500	約 500	約 500	約 500	無	無	無	約 1,000	約 1,000	昭 30	
約 2,000	約 2,000	約 2,000	約 2,000	1	特主以下 1	無	約 400	約 400	昭 30	

備考	果		射耗		害		被		救	
	其 他	毒 破 林	毒 墜 林	砲 類	銃 類	其 他	主 要 兵 器	計	人	其 他
一、被澤敷、概不陸軍地内ノモノトス 二、戦果欄中(一)内ハ海軍ニ依ルモノトス 三、銃類、射撃隊、陸軍十三機銃隊ニ依ルモノトス	敵巡二機三 三命中三	六(三)	一七(五)	(三)小野砲 一〇	約五、〇〇〇	糧秣、被服、衛生、 燃料、食料、主 建築、被服、被 炸、二万噸碎	四七機砲一 M4 = 爆碎 M4 = 爆碎	五七	特校一 推定以下三一 推定以下二五	燒夷隊、毒氣 燒夷隊約三五〇
			七	(四)陸軍AA 二	約五、七〇〇	衛生材料 主、爆碎 建築、被服、被 炸	命 = 爆碎 命 = 爆碎	二一	特校二 推定以下一〇	燒夷隊約三五〇
		(一)	(五)		約五、〇〇〇	陣地施設等	手榴弾 M4 = 爆碎 M4 = 爆碎		無	無
			不明	一	約二、〇〇〇	同上	九五TK一、小 M4 = 爆碎 M4 = 爆碎	一六	推定以下五	燒夷隊若干
		(二)	(二)		約二、〇〇〇		命(四)一 燒夷	三	推定以下三	ロケット弾 約一〇〇
			不明		約三、〇〇〇	同上	若干		無	無
		(D)	一七(七)		約七、〇〇〇		無		無	燒夷隊若干 ロケット弾若干
			(二)		約二、〇〇〇	同上	敵三機AA 使用不能	一	推定以下一	無

考一備	自一八二七																日教	機	考		
	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九					
80 (83)	/	4	10	5	8	2	3	4	8	(2)	(14)	(15)	5	(6)	4	4	1	2	日教	機	考
	B-25 PBM (1)	PBAY I型	PBAY II型	PBAY II型		同	同	B-25	PBY PBM B-25 (6)	大 型	B-24 B-17 (1)		B-24 B-24 B-24	B-24 B-25 PBAY (1)	B-17 B-24			日教	機	考	
462	7	12	17	10	約50	12	19	19	14	2	15		106	37 42	60 63	44 46	13	15	日教	機	考
411	12	25	28	20	22	23	28	28	28	29	25	24	27	28	25	11			日教	機	考
488	12	25	28	20	22	27	57	29	29	29	34	29	36	30	29	40	12		日教	機	考
	PBM PBAY 2型 (2)	PBM PBAY 2型 (8)	PBAY I型	同	PBAY I型	PBAY2 PBM	PBM	PBY PBM (1)	PBY PBM (2)	PBY PBM	B-24 PBM PBY	B-24 PBY (1)	B-24 PBAY (2)	PBY B-24	大 型 B-24 (2)	PBAY2 B-24			日教	機	考
約 1700	15	約 60	約 80	約 60	約 200	48	64	30 約 55	約 10 以上	約 70			約 250	約 200	約 250	約 170	約 70	約 100 以上	日教	機	考
								5月 追加 機						機 追加 機					日教	機	考

大型機考査状況表 (別)

陸軍

四 停處ニ関スル事項

昭和十八年十月七日、敵機動部隊来襲ニ際シ、約九十名ノ停處アリタルモ、海軍側ニ於テ之ヲ処置シ、了テ陸軍側ニ関シ、係トシ

五 海軍ト陸軍

上級部ニ於テ陸軍海軍ト、精神の結合ヲ缺ク、觀テ了シ、島ニ陸軍ハ海軍何シカテ、故クノ要了

神奈川
元

1356

分割撮影ターゲット

分割した 原稿の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="638 616 1197 1008"><tr><td data-bbox="646 616 1189 806">1</td></tr><tr><td data-bbox="646 806 1189 1008">2</td></tr></table>	1	2
1			
2			
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め		
図・表等名	機動部隊来襲状況概見表		
上記のとおり分割撮影したことを証明する。			

機動部隊來襲狀況概見表

未襲年月日	戰鬥開始時刻	戰鬥終了時刻	未襲波數	末襲		未襲艦艇	被彈數			被		主要兵器	害
				機種	機數		爆彈	砲彈	其他	人	物		
昭和十八年 十月六七日	六〇二一〇	七〇一五〇	七	艦載(F4F) 艦爆(SBD)	延約四三三	巡母六 驅一〇七	約三〇〇(發)	約四〇〇(發)	燒夷彈多數	將校一 准士官三一	將校一 准士官三一	小銃二三 發機一 生機一 生機一	機動部隊來襲
昭和十九年 五月二十五日	〇三三二	一三三〇	五	全上	延約四八七	不明	約四〇〇(發) (海軍艦隊約三〇)	燒夷彈約五〇	准士官以下九	無	無	品二三 二爆彈	機動部隊來襲
昭和十九年 九月四日	〇四一〇	一二二四	五	全上	延約一九七 實約七七	巡母一六 驅六三 驅六三	約八〇(發) (海軍約二〇)	燒夷彈若干	准士官以下二	無	無	小銃一 生機一 生機一	機動部隊來襲
昭和二十年 六月二十日	〇三三〇	一五〇〇	九	艦載(F4F) 艦爆(SBD) 艦爆(SBD) 艦爆(SBD)	延約五四〇 延約二四〇	不明	三〇〇以上 (海軍約二〇)	燒夷彈若干	無	合指一五	合指一五	小銃一 生機一 生機一	機動部隊來襲
昭和二十年 七月十八日	〇四一五	一四一五	七	艦載(F4F) 艦爆(SBD) 艦爆(SBD)	延約一五四	不明	約四〇	燒夷彈若干	無	全上一三	全上一三	品二三 一爆彈	機動部隊來襲
八月一日	〇三五七	一四一五	五	艦載(F4F) 艦爆(SBD) 艦爆(SBD)	延約六〇	驅一三 驅一三	約二〇〇	燒夷彈若干	無	無	無	若干	機動部隊來襲
八月六日	〇三四七	一三四八	七	艦載(F4F) 艦爆(SBD) 艦爆(SBD)	延約一六〇	不明	多數	燒夷彈若干	無	無	無	無	機動部隊來襲
八月八日	〇四四五	一三三〇	七	艦載(F4F) 艦爆(SBD) 艦爆(SBD)	延約一六〇	驅一八 驅一八	約四〇〇	燒夷彈若干	無	准士官一	准士官一	小銃一 生機一 生機一	機動部隊來襲

備考	戰果		射耗彈		害		被・人		被彈數			未襲艦艇	
	其他	喪破機	砲類	銃類	其他	主要兵器	計	戰傷	人	其他	砲彈		爆彈
一被彈數概不陸軍地内ノモノニトス 二戰果欄中(一)内ノ海軍ニ依ルモノトス	敵艦三 命中彈三	六(三)	(三)八〇	約四五〇〇	約四五〇〇	小銃一三 輕機一 生機一 早機一	一	將校一 准官一五	准官一三	燒夷彈多數	約三〇〇〇	約三〇〇〇	空母六 驅逐一七
			(敵機)二	約五六〇〇	約五六〇〇	品品 三 二 爆彈	二	將校一 准官一〇	准官以下九	燒夷彈約三五〇	約四〇〇〇 (海軍地内約三〇〇)	約四〇〇〇 (海軍地内約三〇〇)	不明
		(二)	(五)	約五〇〇	約五〇〇	陸軍地内約若干 海軍地内若干	一	無	無	燒夷彈若干	約五〇〇 (海軍地内約七〇)	約五〇〇 (海軍地内約七〇)	空母一 巡六 驅六 推定數若干 (海軍地内約若干)
			不明	約四〇〇	約四〇〇	九發一 小銃一 一爆彈	一六	全	准官以下二	燒夷彈若干	三〇〇以上 (海軍地内約二〇〇)	三〇〇以上 (海軍地内約二〇〇)	不明
		(二)	(二)	約二〇〇	約二〇〇	品(重)一 爆彈	三	全上	無	燒夷彈若干	約四〇〇	約四〇〇	不明
			不明	約六〇〇	約六〇〇	若干	一	無	無	燒夷彈若干	約二〇〇	約二〇〇	戰艦一 驅三 者一 (推定數若干)
		(二)	一	約一七〇〇	約一七〇〇	無	一	無	無	燒夷彈若干	多數	多數	不明
			(三)	約二〇〇〇	約二〇〇〇	敵艦一 小破	一	准官一	無	燒夷彈若干	約四〇〇〇	約四〇〇〇	戰艦一 驅四 者一 (推定數若干)

26 述と違ふ。 8H 37g.

◎ 37g の正し
近藤氏記述(証明)

備考	九八 四元	八八 三元	八七 三元	七六 二元	七七 二元	七六 二元	六六 二元	六六 二元	六四 二元	四四 二元	四四 二元	四四 二元	三三 二元
	四二〇	四〇〇	三三〇	二六〇	三六〇	二〇〇	七八	二三〇	二九〇	二七〇	二〇〇	二五〇	二八〇
	二一〇	二〇〇	一五〇	一三〇	一八〇	一〇〇	七八	一二五	一四〇	一三〇	一三三	一三〇	一五〇
	二一〇	二〇〇	一七〇	一三〇	一八〇	一〇〇		一二五	一五〇	一五〇	四七	一三〇	一三〇
	一四七〇	一四〇〇	一一二〇	九一〇	一二六〇	七〇〇	二七三	八〇五	一〇一五	九四五	七〇〇	八七五	九七〇
	全	全	全	全	調乾物 全	全	全	調乾物 全	全	全	全	全	調乾物 全
	右	右	右	右	五五	右	右	右	右	右	右	右	二〇〇
	"	"	"	"	八	"	"	九	"	"	"	"	一三〇